

FREE 岡山ムーブアップ vol.17
NOV 2015



EXILE

SPECIAL INTERVIEW -1-

黒木啓司

SPECIAL INTERVIEW -2-

E-girls Dream

SPECIAL INTERVIEW -3-

上地 春奈

SPECIAL INTERVIEW -4-

CHOCOMOO

SPECIAL INTERVIEW -5-

伊東 香織

(倉敷市長)

SPECIAL COLUMN

EXILE TETSUYA

岡山から日本を元気にするフリーペーパー

OKAYAMA

MOVE

UP

日本を元気に!
SPECIAL
INTERVIEW

初主演映画が公開

黒木 啓司

KEIJI KUROKI
EXILE/THE SECOND from EXILE

EXILE、THE SECOND from EXILEのパフォーマーとしてだけでなく、俳優としても活躍中の黒木啓司。主に舞台やテレビドラマに出演してきたが、今月ついに初主演映画「クロスロード」が公開される。

リアルに物事を感じる心が人の心を動かす

一木「今月初の主演映画『クロスロード』が公開されますが、どんな映画なんですか」

黒木「青年海外協力隊の50周年記念イベントのひとつとしてやらせていただいたのですが、僕自身、青年海外協力隊がどんな活動をしているのか、撮影に入るまではあまり知りませんでした。沢田樹というカメラマンのアシスタントの役だったのですが、樹も青年海外協力隊のことをあまり知らずに、海外に行って自分の夢を叶えたいという考えの人間だった。フィリピンに派遣されて、だんだんと変わっていくところがこの映画の見どころだと思います。僕自身、撮影でフィリピンに滞在したのですが、そこで見た風景に衝撃

を受けました。マニラ市内でも裸足で歩いている人、物乞いをする子どもたち、そして夜道路で寝る母親のそばには真っ黒になった裸の赤ちゃんが普通に寝ている。そんな光景を目の当たりにして、日本は恵まれているなと思ったし、そういう環境をなんとかしたいと思って、青年海外協力隊の人が行くんだろうと分かりました。マニラは銀座みたいな一角もあるんですが、10分ぐらい行くと、市場にしても道路にしても川にしても汚れていて、異臭もすごい。そういうのを見て、感じると現地に行ってリアルに物事を感じる心が人の心を動かすんだなと思いました。また、そういう現状を変えるには子供たちが学校に行くという環境を整えて、与えていき新しい未来をつくっていかないといけないのかなという気がしました」

出合いがあることで人は成

外国語でも言葉を伝える感情は同じ

一木「撮影中、苦労したことはありましたか？また、撮影していない時は何をしていましたか？」

黒木「英語のセリフが結構あったんですけど、それを覚えるのが大変でした。ただ、言葉を伝えるという感情は一緒なので、まず日本語で言ってみて、その感情に言葉に乗っけていくっていう作業をしました。ただ、こっちから言う場合はいいんですけど、フィリピンの役者さんが、台本通りのセリフではなく、その場に適した言葉や言い回しに変えてくるのがあって、演技やセリフを返すタイミングに戸惑うことがあり、そのやりとりだけで時間が過ぎてい

たこともありました。また撮影以外にもみんなですべて同じホテルに滞在していたので、一緒にご飯を食べたり、お酒を飲んだりしていました。映画に出演しているノエル役の子がいるんですけど、この子は役者ではなく、本当にお父さんとお母さんが普段家にいない貧しい生活をしているんですね。ですからある時ノエルと思い作りでナイトマーケットに行き、靴をプレゼントしてあげました。また、大人の役者さんとはバギオカントリークラブっていう、こっちでいうクラブみたいなところに繰り出して一緒に踊ったりもしました」

出会った人たちによって支えられてきた

一木「自分と照らし合わせて、沢田樹という人間はどういう人間ですか」

黒木「まず、台本を読んだ時に、僕が等身大でできる役だと思いました。それは男性なら誰もが通る道だと思うんですけど、若いうちは親に対しての反抗心があったり、世間知らずなところがあったり、夢を叶えるにはどうしたらいいか葛藤やもがきがあったりする。それが人と触れ合うことにより成長し、最終的には親のありがたみや人の優しさが分かる人間に成長していく。それを描いたこの映画は沢田樹とい

う男の成長物語だと思います。僕自身もこれまで、いろいろな人と出会って、その人たちの力でたくさんの困難を乗り越えてこられた。一人じゃ何もできないし、結局出合いがあることで成長できるんだと身をもって感じますね。ダンスを始めたころの先生やHIROさんはじめJSB、そしてもちろんEXILEのメンバーもそう。ほかにも今でもクラブシーンで活躍する、EXILEに入る前に一緒にダンスをやっていた仲間たち。数え切れない出合いによって、自分は支えられてきたんだと思います」

新しいEXILEを作っていきたい

一木「EXILEのパフォーマー、そして俳優として映画に主演するなど、次々に夢を叶えてきた黒木さんですが、今後の夢は何かありますか？」

黒木「まずはEXILEのオリジナルメンバー3名、MATSUさん、USAさん、MAKIDAIさんが勇退されるということで、HIROさんの時も思ったんですが、EXILEの血をより濃くしていかなきゃいけないと思っています。また残ったメンバーで新しいEXILEを作っていかなきゃいけないという気持ちも。ATSUSHIくんともそういう話

をしますよ。“これからが僕たちの正念場だね”って。個人的には、故郷である九州を活性化させるような活動を新たにできればなと思っています。例えば、いろいろなアーティストを集めてフェスをやったり、それを九州だけではなく、アジアに広げたりするとか。そこに、集まる若い人や子どもを手助けして、同じ夢のステージにあがれるとか、そういう夢も与えられるようなことをやっていきたいと思っています」

人を笑顔にできるアーティストになりたい

一木「素晴らしいですね。では最後に読者にメッセージをお願いします」

黒木「今回、この映画をきっかけに、僕も青年海外協力隊を知ることができました。普段からボランティアは身近にあり、日本を元気にということで、USAさんたちと復興支援で東北に行ったり、ライジングサンプロジェクトに関わらせていただき、子どもたちと触れ合ったりしています。ほかにも福祉活動に参加させていただく中、ボランティアって重く考えずに、例えばゴミを拾うのだってボランティアだし、人に優しくするのも広い意味でいえばボランティアなんじゃないかと思うようになります」

した。ですから、みんなが小さいことから、身近なことから、人のためにできることをやったらいいんじゃないかなって。また、今回はフィリピンにクローズアップしているので、これを機会にフィリピンのことをもっと分かっていたら、この映画で伝えたいメッセージをみなさんに届けたいという気持ちで演じたので、ぜひ1人でも多くの人にこの作品を見ていただけたらと思います。また、EXILEのメンバーとして、これからもLove、Dream、Happinessを届け、人を笑顔にできるアーティストを目指しもっともっと頑張っていくので、ずっと応援していただけたら、うれしいですね」



OKAYAMA MOVE UP 総合プロデューサー
一木広治 (ICHIKI KOJI)

株式会社ヘッドライン代表取締役社長 / 二十一世紀倶楽部理事・事務局長 / 夢の課外授業総合プロデューサー / 2020東京オリンピックパラリンピック招致委員会事業・広報アドバイザー (2011年～2013年) / LDH顧問エグゼクティブプロデューサー / ローソン・ローソンHMVエンタテインメント顧問 / チヨダ顧問 / 総合PR会社 vector (ベクトル) 顧問 / USEN 顧問 / 株式会社ファインシード 顧問 / 株式会社 MOCA ENTERTAINMENT (フォーシイズグループ) 顧問 / スリープセレクト顧問 / 淑徳大学人文学部表現学科客員教授 / 早稲田大学理工学部 EDGE プログラム講師 / NEXT INNOVATOR2015 サポーター / 経済産業省 JAPAN MOVE UP ワーキンググループ・プロデューサー

PRESENT 黒木啓司のサイン色紙をプレゼント!

OKAYAMA MOVE UP Vol.17 の発行を記念し、今回巻頭インタビューで登場いただいた黒木啓司のサイン色紙をプレゼント。ご希望の方は OKAYAMA MOVE UP のフェイスブックページをチェック!

OKAYAMA MOVE UP



長できる

読者からの質問に黒木啓司が直接答える 答えて！ 黒木啓司さん

◆役柄と黒木さんとが似てるなあと思うところは
どんなところでしょうか？（えみちゃんねる）

男だったら誰もが通るような反抗期や、親に対しての態度。自分も若いころはそういうところがあったなと。そこが似てると思います。

◆私は趣味で写真を撮っています、メンバーのネスミスさんも写真撮っていますよね！ 今回の役はカメラマンの助手から始まりますが、実際に写真を撮る側だったら KEIJI さんはどんな写真を撮りたいですか？（めぐみ）

風景とかも面白いんですけど、やっぱり人を撮るといのは面白そうな気がします。特に人の気持ちがあふれる瞬間など、人間の感情をとらえてみたい。

◆啓司さん初主演のクロスロード、すごく楽しみにしています。予告編見ましたが、英語での台詞が多かったように思いました。その中で1番覚えるのが大変だった台詞はなんですか？（みっちゃん）

Thank you（笑）。サンキューなのか、テンキューなのかどっち？って。というか、もう英語のセリフは覚えてない（笑）。むしろ捨てないといけないですから。あと、座って下さいという意味の Sit down の Sit が Shit に聞こえるって言われた。ちくしょうとかくそって意味なんですけど。それで結構現地の人に笑われました。

『クロスロード』

2015年11月28日（土）全国ロードショー

【出演】黒木啓司（EXILE）、渡辺大、TAO、アローディア、飯伏幸太（DDT プロレス／新日本プロレス）、山本未来、加藤雅也（友情出演）、榊原るみ、長塚京三

【URL】<http://crossroads.toeiad.co.jp/>

©「クロスロード」製作委員会





日本を元気に！
SPECIAL
INTERVIEW

Dream

女性4人からなるガールズ・エンターテインメントグループ、Dream (ドリーム) がニューシングル『ブランケット・スノウ』を11月18日にリリースする。グループ初のウインターソングとなる本作は、Dreamらしさにあふれている。「この曲で、みなさんを温かくできたらいいな」。一木広治が聞く。

全員で歌って全員で踊る！ 新曲は「歌って踊る」

一木広治 (以下、一木):最新シングル『ブランケット・スノウ』がまもなくリリースされます。まずは、タイトル曲について教えてください。

Aya: 新曲ということになって、季節的にも冬の始まりだったので、ウインターソングにしようってなったんです。

一木:なるほど。まずは、ウインターソングを探していったんですね。

Aya: はい。そのなかで全員でいいね!って決まったのがこの曲でした。

Ami: 最初に思ったのは、キラキラ感がすごいなあって思いました。

Erie:王道のJ-POPのウインターソングっていう感じもあるんですけど、ウインターソングというとバラードが多くなりがちですが、この曲は四つ打ちだったりキックがしっかりと入ったりしているので、歌った

り踊ったりする自分たちに合うなと思いました。

Aya: Dreamは全員が歌って踊るグループということもあって、Dreamとしての作品は、一人ひとりの声を意識して作っています。そのなかで前作、そしてその前の作品は歌心に力を入れて、パフォーマンスよりも歌に集中してきたので、今回はパフォーマンスにも力を入れて、歌って踊る。両方に力を入れてます。

Shizuka: この曲のメロディーは寂しい感じなのですが、歌が乗ることで楽しそうに聞こえるんじゃないかと思いました。

Aya: そう。それで、Dreamらしくじゃないですけど、温かさをみなさんにお届けできるような歌詞を乗せたいなって、作詞を小竹正人さんをお願いしたんです。小竹さんは、普段から私たちをよく見てくださっている方ですから、曲と歌詞が合わせられたときには、私たち自身がDreamらしいって感じる曲になりました。

一木:レコーディングするなかで、難しかったことなどありますか？

Ami: この曲はメロディーは悲しげで歌詞はキラキラなところが聴きどころの曲だと思うのですが、ついメロディーに引っ張られて、切なくなりすぎてしまうところが難しかったです。

Aya: 出てくるのは、すごく幸せなカップルで、相手がいるからこそ感じられる歌詞。私も、想像しながら歌いました。

Shizuka: それと、空とか、イルミネーションとか、雪が降るとか、景色を表す歌詞も多いんですよね。聴いている方にも、冬が始まる感じが伝わったら……私は、そんなことを考えてましたね。

Erie: 曲はサビに至るまでの時間がすごく短いです。サビの盛り上がりへとどう持って行くか、それも難しかったです。

一木:制作中に、心がけていたことはありますか？

Erie: 今の自分たちの大きなテーマとし

て、肩の力を入れすぎない、等身大のものというのがあるので、聴いていただける方が緊張しない、温かい気持ちになっていただけるよう心掛けていました。

Shizuka: それに加えてですが、前作から今作まで少し間が空いていて、その間、Amiちゃんのソロだったり、ErieちゃんのDJだったり、私自身もDANCE EARTH PARTYに正式メンバーとして参加させていただいたり、個々の活動がすごく多かったんです。いろいろな経験や勉強をさせていただきながら、何かをDreamに持って帰らなきゃって思っていたので、前と少し変わったねっていうのを歌やパフォーマンスから感じてもらえたらな、そんなことを思っていました。

Ami: いつも新しい自分たちを見てもらいたいって思っているよね。

一木: そういったみなさんの熱い想いが込められているシングルなのが、ちゃんと伝わってきますよ。



新しい Dream を見せたい 最新シングルでもチャレンジ

一木：今回の「新しい」は？

Aya：まずは、Dreamとして初めてのウインターソングであるってことと……。

Ami：Ayaちゃんのソロ曲を収録していること、12年前の『I love dream world～世界中のしあわせを歌おう～』をセルフカバーしていることも新たな挑戦になっていると思います。ジャケット写真も雪景色をイメージしたドレスの写真とブランケットでクリスマスツリーをかたどっていたり、遊び心があります。新しい Dream の表現、そのやり方を意識しています。

一木：アートワークは4人で考えた？

Aya：それは、デザイナーさんにお任せしました。というのも、自分たちの思う Dream じゃなくて、外から見た時の Dream ってどうなんだろうっていう気持ちがあって。デザイナーさんは、Amiちゃんのソロを担当してくれた吉田ユニさん。できあがったものを見ても、さすがだなんて思いました。

一木：なるほど。ところで、今回ソロ曲を

収録することにしたのはどうして？

Aya：新しいチャレンジと偶然が重なったんです。もともとソロ曲を入れることは考えてなくて、シングルを作ることになったタイミングで、小竹さんが私に合う曲があるって『キミに逢いたい』を書いてくれました。とてもいい曲ですし、今後 Dream としてのツアーも考えた時に、ソロ曲を収録してみるのも一つの挑戦かな、Dreamの未来につながるんじゃないかなって思ったんです。

一木：切ないラブソングですね

Aya：以前、小竹さんに自分の初恋の話をしたことがあって、それを覚えていてくださったんですよ……

一木：それはいつのこと？（笑）

Aya：高校3年生ぐらいだったかな（笑）。……レコーディングでは、1人で歌い切るのが大変でしたね。それに、詞の世界観、自分の実体験が重なり合ったので感情的になりすぎずに歌うのが……。

一木：ほかのメンバーのみなさんは、この曲を聴いてどんな印象を持ちました？

Ami：Ayaちゃんらしいなって！

Erie：この恋愛の話を知っているから、

なるほどなって思いましたね（笑）。

Shizuka：あの時こう思ったのか、って。ただ、Ayaちゃんの話ではあるんですけど、この曲を聴いてくださる方の中にはこういう気持ちの人、たくさんいらっしゃるんだろうなって思います。

12年前の曲をセルフカバー！ 根本的に変わっていない

一木：さて、先ほども話題に上がった『I love dream world～世界中のしあわせを歌おう～2015』ですが、この曲をセルフカバーしたのはどうしてですか？

Aya：これは、Amiちゃんがやろうって言うてくれたんです。この曲、今年はライブやフェスでもよく歌っていたんです。

一木：ライブやフェスのセットリストに入れていたのは理由があるんですか？

Ami：この曲を歌っていたのは中学生の時で、世界中のしあわせ～って、テーマは大きいんですけど、当時の自分たちは人生経験が少なくて、この大きなテーマを歌うには説得力がないなってところもあったんです。大人になって、E-girlsでの活動も

あって、より多くの人に聞いてもらえるようになった今、もう一度歌いたい、この歌を歌い続けていきたいと思ったんです。

Aya：シングルに収録するというか、CDにすることも考えてなかったんですけど、実際に今、世の中にも戦争とかいった言葉が飛び交ったりして……。収録する意味があるんじゃないかって。

一木：どこか変わったところはある？

Ami：アレンジを変えたりもしてみたんですけど、何か違うな…と思ったんです。なので、そのままのアレンジでカバーすることにしました。楽曲もそうなんですけど、セルフカバーして改めて感じたことがあって、それが、Dreamって根本的に変わってないってことなんですよね。

一木：いろいろあったけど変わってない。ところで、一番辛かったことって何？

Ami：LDHに移籍して、武者修行に行っただけ、CDも出して、アルバムも出して。できることはすべてやったけど、どうにもならないっていつかですね。

全員：（同意）

Ami：そのあと、EXILE ATSUSHIさんの『希望の光』、そしてE-girlsってチャン

Dreamの歌声で今年の冬を温かくできたらいいな

スをいただいて。あの時の悔しい思いの反動で今できている気がします。

Ami：ピンチはチャンス。その言葉に助けられたよね。

Erie：誰かがへこむと誰かが引っ張ってくれる。グループで良かった。

Shizuka：そういうときは、すべて自分だけで頑張るのではなく周りの力を借りることも大切なんだよね。

一木：Dreamの夢を教えてください。

Aya：夢は、Dreamでアルバムを出して全国ツアーをすること。来年再来年と、そうした夢が実現できるように頑張りたいです。

岡山はErieの場所。 みんなで行けるのが楽しみ。

一木：Dreamのみなさんには、岡山でのイベントに出演していただきますが、岡山に関する思い出やエピソードはありますか？

Ami：岡山というと、Erieちゃんの場所っていうイメージです。Erieちゃんとお出っ岡山がどこにあるかも知ったし、岡山でイベントができることになったときのErieちゃんの喜びようとか…。

Erie：イベントをやるよ!ってなると、決

まって、東京、名古屋、大阪ですよ。それに加えて、広島、もしくは九州とか。岡山って入ってないことが多いんです。だから、岡山でイベント!ってなるとすごいうれしいです。

Ami：Erieちゃん、お帰り~!ってすごいよね。

Shizuka：この間、同じところであったイベントに出席したんだけど、Erieちゃんによろしくって…(笑)。

Ami：武者修行のころだけど、中学校に行ったことあるよね。移動中、Erieちゃんが「ここ、学校の近くだ…」って言って、みんなで行こう!って。職員室に行っただけど誰もいないみたいなの。

Erie：あったあった、思い出してきた。

一木：会場はイオンモール岡山。バックナンバーっていうお店では、DreamとコラボしているライトオンのMOCOMOCOジーンズも手に入るんですよ。

Erie：あれ、本当にすごくいいんです。すごく温かくて。

Ami：外見からはそんなモコモコジーンズだとは見えないのいいんですよ。

Aya：新しいCMもぜひ見ていただきたいです!



Dream 最新シングル『ブランケット・スノウ』は rhythm zone より発売中。タイトル曲のほか、『キミに逢いたい / Dream Aya』『プレゼント』、そして『I love dream world ~世界のしあわせを歌おう~ 2015』を収録。【CD+DVD】は1944円、【CD】のみは1296円。ともに税込み。詳細は公式サイト (<http://dream-ldh.jp/>) で。

Dreamのサイン色紙を質問者&読者3名にプレゼント!
 質問を送ってくれたあっちゃんさん、あすちゃんさん、奈津美さん
 には名前入りサイン入り色紙をお送りします。

Dreamのみなさん、これ教えて!

読者からの質問をDreamのメンバーにぶつけてみました!

『ブランケット・スノウ』の好きな歌詞を教えてください?? (あっちゃん)

Ami：「寒い冬 苦手なはずが キミと居るだけで ぬくもりになる」ってところ。大切な人がいるから、苦手だったところが好きになる……そういうのに共感するっというか、そんな感じ。

Aya：最初の「冬の匂いがして 空を見上げたら」かな。今の季節にぴったりだと思うんです。今、Dreamのなかで普通の会話のなかにも“冬の匂いがした”っというのがよく登場してます。

Erie：私は2つあって、ひとつ目は「粉

雪が舞い踊るたびに—」ってところ、そして「降りしきる 雪のダンスに」っていう。“踊る”とか“ダンス”とか、この感じが恋のドキドキする気持ちに似ていると思うんです。

Shizuka：「今まで知らなかった私 離さないでね」ってところですね。この曲の主人公ってかわいらしくて、ほわほわしているって印象だと思うんですけど、ここだけ自分の意見というか気持ちをしっかりとっているんですよ。聞いているとハッとさせられるんです。

今年ブランケットを買うならどんな柄を選びますか? (あすちゃん)

Ami：グレーかなあ。……『ブランケット・スノウ』のジャケット、ミュージックビデオの衣装もグレーをさし色にしているんですけど、それが素敵だなと思ったので。これまでは、ピンク、白に行きがちだったけど、今年初めてグレーの気持ちになれたんですよ(笑)。

Aya：ピンク、ですね。この間ブランケットをいただいたんですが、それは男前な感じだったんですね。だから、自分で買ったら女の子っぽいので。ふわふわした感じ。

Erie：私は、緑。……最近、緑が好きなんです。植物を買ったりもして。

Shizuka：水色。最近、水色をまとうことが多くて、好きになりました。

『ブランケット・スノウ』のMVとても可愛くて素敵でした!! MVの撮影のときの裏話やMVのここが見どころ! 絶対見て! っってゆうところがあったら教えてください!!! (奈津美)

Aya：……うーん。全部。全部見てほしい(笑)

Erie：ブランケットで遊ぶシーン?

Ami：そうそう、あれはみんなで自由になって感じだったものね。

Shizuka：素のDreamを見ていただけると嬉しいです。

SPECIAL
INTERVIEW一度見たら、忘れられない個性派女優！
話題のドラマ『偽装の夫婦』出演

上地春奈

H A R U N A U E C H I

お笑いコンビ・キャラメルクラッチとして活躍し、現在では『ショムニ2013』や『コドモ警察』などの人気ドラマや映画、舞台『奇跡の人』などの話題作に出演。あるときは見事な怪演で笑いを取り、あるときは味のある演技でインパクトを残す。そんな彼女の活躍の秘密は“いちやりばちよーでー”式のポジティブなコミュカ！いま最も気になる個性派女優の素顔に迫る。

“ごく普通の女の子”の役が新鮮だった!?

「今回『偽装の夫婦』で演じているのは、ごくごく普通の女の子の役なんですよ!」と、なぜかうれしそう?な上地春奈。確かにこれまで『コドモ警察』ではマッシュルームカットの鬼嫁、小嶋陽菜主演ドラマ『メグたんって魔法つかえるの?』ではおブスメイクで“ブスメグたん”に扮するなど、とにかく強烈なキャラでインパクトを残してきた。

そんな上地がいま出演しているのが、天海祐希主演のドラマ『偽装の夫婦』。一見、穏やかな孤高の美女だが実は大の人嫌いの主人公と、実はゲイだった元彼が“偽装結婚”をすることに…!? 笑い毒を散りばめながら、イマドキの複雑な人間関係を描く話題のドラマだ。「最初にこのお話を伺ったときは驚くやうらしいやらで。軽くジャンプしましたね(笑)。何しろあの遊川和彦さんの脚本で、最高のキャストと共演できるんですからね。台本を読んだら本当に面白くて、この先どうなるんだろうって、次の台本が待ち遠しくて。完全に普通のファンみたいになっています(笑)。天海さん演じるヒロと沢村一樹さん演じる超治の掛け合いも本当に面白いし、異性・同性の恋愛模様が複雑に絡み合っていて、物語の先がまったく読めなくて次々に驚かされるし。もともとドラマ好

きなので『家政婦のミタ』とか『〇〇妻』とか、これまでの遊川さんの作品も全部拝見していたのでお会いしたときは感激でした。ご本人は本当に気さくでパワフルな方でした。私のようなサブキャストにも情熱的にアドバイスしてくれるのでありがたかったです。君はもう、立ってるだけで面白いからあえて面白いことをしようとしてなくていいよ、と(笑)」

上地は、天海演じる主人公・嘉門ヒロが務める図書館の同僚という役どころ。一見優しそうなのだが心の中で自分に悪態をつけていることなど知る由もない、その“ごく普通”っぷりに笑いが込み上げる。「ごく普通の人の役なんてほとんど経験がなかったので、新鮮で楽しいし、すごく勉強になります」

確かに上地といえば『コドモ警察』『女子ーズ』など福田雄一作品の常連。「私がお笑いをやっていた当時、作家さんとしてネタを見てくださっていたのが福田さんなんです。実は私はアイドル志望で(笑)お笑いの勉強をしてこなかったためか笑いのセンスが独特らしくて、それを面白がってください。俳優となった今では度々作品にも呼んでくださるので、本当に感謝しています。ぶっとんだキャラを福田作品で演じるのは最高に楽しいですけど、やはり俳優として役の幅も広げていきたいので、いろんな役や作品に挑戦していきたいと思っています」

脚本の遊川和彦さんから “君は立っているだけで面白いから、 普通にしてて”と言われました（笑）。

撮影現場が楽しい理由は超コミュカ

天海をはじめ、沢村一樹、内田有紀、富司純子ら豪華キャストがひとくせもふたくせもある人物を演じているのも見どころ。
「普通に見るだけでも面白いんですけど、ぜひ2回目3回目と見て、細かいところも楽しんでいただきたいんですよ。毎回劇中に登場する本も、実は遊川さんがこだわって選んでいます。私も気になって、劇中に登場する本を図書館に借りに行ったんですけど、最近の図書館のサービスの良さにびっくりして、いま図書館通いにハマってます（笑）。他にも、ゲイっぽさを隠しきれていない超治を沢村さんが細かな演技で表現しているのもチェックしてほしいですね（笑）」

“ボス”天海を中心に、撮影現場も充実している様子。

「ちょうどいい緊張感とやる気に満ちた現場ですね。というてピリピリしているというのでもなく、私がちょっと間違えたときには、天海さんから愛あるツッコミが入ったりして（笑）。休憩中は、雑談で盛り上がったたり、天海さんが直々に筋トレのアドバイスをしてくれたり、楽しくやらせてもらっています」

持ち前の笑いのセ

ンスで、すぐに人の懐に飛び込んでしまう。

「といっても実は私、もともとお笑いをやりたいわけじゃなかったんですよ。本当は安室奈美恵さんとかドリカムの吉田美和さんにあこがれて、芸能界に入りたいと思ったんです。それで上京して、気づいたら芸人になっていたんですけど（笑）、とりあえず大手プロに所属していれば、いつかはアイドルになれるだろう、とお笑い時代もコントや芝居をするのは好きだったんですけど、ネタを考えるのは苦手でした。やっと俳優としてやっていくことになったときは本当にうれしかったですね。何より、芸人を辞めると普通に“女子”として見られるんですよ。お笑い時代はそんな扱いされませんでしたから。アイドルを夢見て沖縄から出てきたものだから、現実を目の当たりにして、まさに衝撃でした。実はそういうことにも内心、すごく悩んでいたんです（笑）」

一見、何でも笑い飛ばしてしまいがちだが、意外と落ち込みやすい面もあるという。

「芸人から俳優へと転向したとき、マネジャーの名刺の裏に書いてある“俳優”のリストに私の名前が載ってなくて、密かに落ち込んでいたこともありました。事務所的には、まったく大したことじゃなかったんですけど」

そんな上地の心の支えとなっているのは上京する際に母がくれた言葉。

「厳しいことを言われても意地悪を言われ

上地春奈（うえちはるな）

1980年生まれ。沖縄出身。お笑いトリオ・キャラメルクラッチとして活動後、女優デビュー。『ヤンキー君とメガネちゃん』『コドモ警察』などのコメディから『MOZU Season1～百舌の叫ぶ夜～』、舞台『奇跡の人』などシリアスな作品まで、幅広い作品に出演。現在放送中のドラマ『偽装の夫婦』にも出演中。

でも全部“ありがとう”と返しなさい、と言われてました。常に感謝の気持ちで人の言うことを聞きなさい、と。まあ、表面的にはそうしてますけど心の中ではヒキミみたいに悪態ついてます（笑）。やはり離れていても家族の存在は大きいですね。普段だと母は“さっさと沖縄帰ってきなさい、将来のことはどうするの”とよく言うんですけど、なぜか私が仕事で落ち込んでいるときには“もう少し頑張ってみたら”と背中を押してくれるんです。家族だけじゃなくて、周りのスタッフや友人たちにも助けられていますね。私は自分で考えることが苦手で（笑）、基本的に悩んだり不安になったりするとすぐ周囲に相談するタイプです。どうしようもないときはノートに自分が思ったことを書き連ねていますね。それは絶対誰にも見せられません（笑）

その一方で、実はかなりのコミュニケーション能力の持ち主。

「すごく仲良くなってしまって、会ってすぐに家族くらいの距離感になることもありますね（笑）。実は天海さんのことも以前から存じ上げていたので、今回ご一緒できるのが本当に楽しみでした。現場でお会いしたときは天海さんがすぐに私に気付いて他の方々に紹介して下さったおかげで、すぐにみなさんと打ち解けることができました。特に内田さんは突然“ご飯食べに行きましょう”って。どうやら天海さんが“春奈ちゃんはすごく楽しい人だから絶対気が合うと思う”と言って下さったようで（笑）。私が好きな言葉で、一度会えばみな兄弟＝いちゃりばちよーでーという沖縄の言葉があるんですが、私はいつも、好きだと思った人にはちゃんと“好き”を伝えようと思っています。天海さんとの出会いもそうでした。こんな素敵な人と、この出会いだけで終わらせたくないと思

「また岡山に伺うのでよろしく！」

「舞台の仕事でよく地方に行くことがあるんですが、楽しみはやっぱり現地のおいしいものとお酒ですね！ 岡山でも“ママカリ”を頂いて、すごくおいしかったのを覚えています。商店街で岡山の名物を尋ねたら、お姉さんが自分の店じゃない場所を“ここがおいしいから！”って紹介してくれて。岡山っていい人が多いんだろうなと



撮影・神谷渚

い、ご飯に連れて行ってください！とお願いしたらいいよ！って（笑）。人と人との絆って、案外こんな感じでつながっていくんですね。だから皆さんも“この人、好き！”と思える人と出会ったら、ガンガン行っちゃっていいと思います！」

あるときはウエディングドレス姿、またあるときは全身タイツ姿…そんな幅広すぎる役を演じられる立ち位置にも、やりがいを感じている。

「まだまだこれからですよ！ もっともっと皆さんに認知していただけるような俳優を目指して、これからもどんどん友達の輪を広げながら（笑）、いろいろな役に挑戦していきたいと思っています。何かご縁があったら紹介してくださいね〜！」

思いました（笑）。地方公演だと、たまに現地の町内会とか婦人会の方が食事を用意してくれたりご自宅に招いて下さったり、都会では考えられないようなアットホームなおもてなしをしていただくことがありますね」

ぜひ今度は岡山でアットホームなステイを楽しんでください！

POSITIVE ITEM

家族、友人、仕事仲間

友達はけっこう多いので、いろいろところで助けられています。特に俳優仲間は、芝居の相談なども親身になって意見をくれるので、本当に感謝しています。

お酒

舞台の地方公演などでは、その土地の地酒とおいしい料理を味わうのが何よりも楽しみ。

PRESENT

**上地春奈さんから
読者3名にサイン色紙を
プレゼント！**

上地春奈さんのサイン色紙をプレゼント。ご希望の方は OKAYAMA MOVE UP のフェイスブックページをチェック！

言葉

いちゃりばちよーでー。出会えば兄弟、という沖縄方言。



INFORMATION

ドラマ『偽装の夫婦』



STORY：嘉門ヒロ、45歳。その微笑みと人当たりの良さで“孤高の美女”“理想の女性”と慕われているが、実は大の人嫌い。ある日、そんな彼女を作り上げた元凶である、かつて愛した男・超治と偶然、再会。あろうことか偽装結婚を持ちかけられる。

脚本：遊川和彦 出演：天海祐希、沢村一樹、内田有紀他
毎週水曜日22時より放送中（日本テレビ系）

OKAYAMA
MOVE UP!
トークスペシャル

岡山県 倉敷市市長

伊東香織

2008年4月、倉敷市長選挙に無所属で出馬し、初当選した伊東香織倉敷市長は、当時全国で最年少の女性市長として話題に。2012年には、倉敷市長再選を果たす。地方創生を重要テーマに掲げる現政権において、倉敷市の魅力と今後の展望、また、来年行われるG7倉敷教育大臣会合、そして2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、世界に発信したいことを伊東市長にうかがった。(聞き手・一木広治)

一木「OKAYAMA MOVE UP!では2013年1月から“岡山から日本を元気に!”」をテーマに活動しています。伊東市長からみて、倉敷市及び岡山の魅力、ポテンシャルについて教えてください」

伊東「最近でいうと倉敷市は子育てがしやすいまちということで大変注目されています。と申しますのは、地方創生の大きな項目として、子育て支援、地域産業の活性化、そして地域連携があり、中でも子育て支援はとても大きな位置を占めています。私も公約のひとつに“子育てするなら倉敷で”と掲げており、市民の皆さんの声をいただき、待機児童を減らすために保育所を作ったり、放課後お子さんを預かる学童保育を広めたりといったことに取り組んできました。また、妊婦健診や子ども医療費の公費負担なども進めてきて、それらいろいろな施策がうまくかみ合っ

て効果が上がってきました。実際、私が市長になった2008年までは合計特殊出生率は大体1.4台だったのですが、先ほどのような施策を市と行政、そして市民と一緒に取り組んできて、全国平均が1.42の中、倉敷市は現在1.63です。人口48万人を超える大都市としては珍しいと思いま

す。また、地域間連携では、倉敷市が岡山県の西半分の新見市、高梁市、総社市、井原市、浅口市、笠岡市、早島町、里庄町、矢掛町の6市3町と連携協約を結びました。これは一般的な協定ではなく、双方の議会が議決をする非常に重いもの。それによって、一緒に子育て施策や観光施策を行い、お互いの良い所を利用して、自分のところ他にもプラスとなり、みんなで住みやすい町を作る、そんな地域連携に力を入れています。来年のG7倉敷教育大臣会合は、倉敷市を世界に発信する良い機会ですが、倉敷市を含む高梁川流域の7市3町としても、世界にPRしていきたいと思っています。倉敷美観地区という伝統的建造物群保存地区には、もともと多くの観光客が訪れているのですが、さらに最近では電線類を地中化し、町屋・古民家の再生、活用を進めています。また、最近では水島工業地帯のコンビナートの夜景が西日本ナンバーワンになりました。鷲羽山スカイラインから見る工場夜景が西日本で一番美しい夜景スポットとして日経新聞に取り上げられましたので、そういうことも、もっと多くの方に知っていただければと思っています。また、ファッションではジーンズ。中でも倉敷市の児島エリアは日本で最初に国産ジ

ご当地児島のデニムファッション。撮影・宗村和磨

地方都市にはものすごい可能性がある。 倉敷市の教育と文化を核としたまちづくりを世界に向けて発信したい。

ーンズを生産した所で、今年でちょうど50年になります。それも、若い人に倉敷市の児島のジーンズが注目されているのもPRポイントですね」

一木「OKAYAMA MOVE UPは地元の若手経営者たちが立ち上がり生まれた活動です。倉敷市における、若者による新しいムーブメントや創業、またそれに関する市政としてのサポート体制などについて教えて下さい」

伊東「これもまた私の公約のひとつでもあるのですが“地域経済が元気で、人が集まるまち”という項目があります。そのためには創業というのが非常に重要なので、平成23年の7月から市内3つの商工会議所と2つの商工会、そして市で創業サポートセンターを立ち上げました。これは箱ものではなく、そこに行けば商工会議所や商工会の会員でなくても、相談に乗ってもらえるということ。それをさらに今年の4月にパワーアップさせ、地元金融機関にも加わってもらいました。身近な場所で創業の相談窓口ができるようにしたところ、年間約500件以上の相談があって、大体、その1割の40件ほどが実際に創業されています。今年はずでに500件近く相談があって、もう60件以上創業されています。相談窓口のことが知られてきたというのがありますが、金融機関が一緒になり、官と民から創業力を高めるように頑張ってくれている結果だと思っています」

一木「来年5月26～27日の伊勢志摩サミット開催に先立ち、5月14～15日に教育相会合が倉敷市で開催されることが決定しました。国内外へ倉敷を発信する絶好の機会と思いますが、どのようなPR施策・おもてなしをお考えでしょうか？」

伊東「今回の教育大臣会合は21世紀における教育のイノベーションがテーマと聞いています。私は、日本の教育のすばらしさを世界の方に知ってもらいたい、そして、学校教育に加え、地域のみなさんも子どもたちを育ててくれていることを分かってもらいたいと思います。たとえば、実際に小学校、中学校の現場を訪問して、勉強の様子をみてもらう。勉強の内容だけでなく、地域の人たちも関わりながら子どもたちを育てていることが分かるような授業をお見せできればと思っています。また“英語によるG7おもてなし講座”という取り組みを行います。まずは外国の方に対応するためのホテル、レストラン、小売店などを対象とした無料講座を開催します。2020年に向けてまだまだ準備が進んでいない部分もありますので、このサミットをきっかけに急ピッチで準備を進めて行こうと思っています」

一木「2020年の話が出ましたが、地方都市として2020年東京オリンピック・パラリンピックをどのように生かしていきたいとお考えでしょうか？」

伊東「ホストシティタウン構想に手を上げたいと検討しています。これからの地方創生の時代では、東京、京都、大阪、広島などというゴールデンルート以外の地方都市に、いかに多くの外国の方が来てくれるかというのが重要になる。日本の魅力をより深く見てもらうために、地方の普通の日本人に接してもらいたい。最近ではわざと不便なところに行く外国の方も増えていると聞きます。まだまだ世界ではメジャーでない各地方都市で触れ合っただけのことこそ地方創生だと思います。今回の大臣会合の開催地の中では、唯一倉敷市は政令指定都市でも県庁所在地で

も、特殊な特色を持つ場所ではないのに選ばれました。ですから、地方都市がサミットのような大臣会合を成し遂げていくことこそが、2020年につながっていくと思います」

一木「ありがとうございます。では、岡山の読者に向けてメッセージをお願いします」

伊東「いろいろなことをやって、自分のやりたいことを見つけてほしいと思います。誰でも日々新しい発見があると思います。だからいろいろな事に真っ正面から向き合っ、そのことについて、自分がどのように感じるか。また、いろいろな人の話を聞きながら、それを肥やしにして自分の考えを持っていく。そうしたことを日々積み重ねることで、進みたい方向も見えてくるのではないのでしょうか」



【PROFILE】平成2年3月、東京大学法学部卒業、同年4月郵政省（現在の総務省）入省。平成5年6月、ハーバード大学法律大学院修士課程修了。総理府国際平和協力本部事務局参事官補佐、総務省インターネット戦略企画室長補佐などを歴任後、平成15年4月に国から倉敷市に転任となり、総務局長、収入役を務めた後、平成20年4月、当時全国で最年少の女性市長として当選。現在2期目。平成27年3月には、高梁川流域7市3町の「高梁川流域連携中枢都市圏での連携協約」を締結。現在、政府の「まち・ひと・しごと創生会議」構成員、「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部」本部長

新企画

OKAYAMA MOVE UP チーフプロデューサー 源 真典が、
逢いたい人に逢いに行ってみた。という企画。

記念すべき第一回目のゲストは、本誌読者ならEXILEや
三代目J Soul Brothersのツアーグッズのデザインでご存知の
世界をまたにかけて活躍するこの方です。



Chapter.1 CHOCOMOO

(職業：イラストレーター)

初めてのニューヨーク。たった2週間の滞在。
そこから全てが始まった。

OKAYAMA MOVE UPチーフプロデューサー源 真典(以下、源)：

今のお仕事に至るまで、決してストレートではなかったと思うんですが、ここまでの道のりを教えてください。

CHOCOMOO(以下、C)：きっかけは、小さいときから絵を描くことは好きだったんですけど、服も好きで、もともと服屋さんでも働いていたんです。

そのときに、いきなり友達とニューヨークに行こう!となったんですけど、服屋さんはなかなか長期のお休みが取れないので、もう辞めて行こうとなったんです(笑)。それから初めてニューヨークに行って、楽書きのような絵を公園とかで描いていたときに、たまたま通りがかった方から「それギャラリーで展示してみないか?」と話をいただいて、そこから始まり、そのときに初めて「絵ってこんな風に仕事で出来るのか?」と感じたんです。

当時のブログにそれこそ楽書きのような作品を載せていたんですが、日本でブランドをされている方から「コラボをしたい」と連絡をいただいたりしました。

源：少し話が戻るんですが、ニューヨークを選んだ理由は何だったんですか?

C：もともとHIP-HOPなどの音楽が大好きで、憧れていたんです。それこそダンスもかじった時期もあって、アーティストといえば、ニューヨークというイメージがあったんです(笑)。

源：声をかけられたのはいつ?

C：初めてニューヨークに行った22歳のときでした。2週間しか行っていなかったので、ターニングポイントはそこでした(笑)。かなりラッキーでした。それまで絵で何かをしようという考えはなかったんですが、それをきっかけに、いろいろ仕事が繋がっていきました。それからニューヨークが好きになって、何度も行ったり来たりを続けていくうちに、仕事も増え、絵一本でやろうと決めました。



源:絵一本でやろうと決心するまでの期間はどれぐらいだったんですか？

C:22歳のころはまだ始まったばかりなので、コラボのお仕事は定期的にあっただんですけど、その間は前の服屋さんにバイトという形で入って、1年とちょっとの間は両立していました。そのうちにだんだん絵のお仕事が増えてきて、服屋さんに迷惑をかけてしまうので、絵一本でやり始めました。で、気づいたら今、という感じです(笑)。

23、4歳のときから本格的に始めたこのお仕事も、最初はアーティスト名がなかったのですが、本名の“ゆか”でやっていたんですけど、ニューヨークをメインで展示を行っている、なかなか名前を覚えてもらえないんですね。そんな中で何かいい名前がないかなと考えていたら、ニューヨークの仲間が遊びで決めてくれたんです。

源:由来は何だったんですか？

C:当時私はコーヒーが飲めなくて、チョコレートばかり飲んでいたんですけど、ある映画の主人公が私と同じように、チョコレートのジュースばかり飲んでいましたね。その主人公が飲んでいた飲み物が『CHOCOMOO』という名前だったんです。

源:実際にある飲み物だったんですね(笑)。

C:そうなんです(笑)。例えばコカ・コーラって呼ばれているような感じです(笑)。あまり浸透していない飲み物なんですけど、響もかわいいし、それでいいやん!ってなったんです(笑)。

日本の伝統文化が好き。 モノトーンスタイルのルーツは書道。

源:少し話は変わるんですけど、小さい頃から習字をされていたんですか？

C:そうなんです。

源:私も小さい頃から習字をしていたので、少し感じたことは、“だから作品がモノトーンなのか”と思ったんですね。

C:そうですね!

源:習字にこだわるわけではないのですが、読者の方でも習字をされている方もいらっしゃると思うんですね。また、自分自身がやっているのを感じるんですが、流れはありましたか？

C:なぜモノトーンで絵を描くんですか?という質問からよくこの話になるんですけど、それこそ昔から書道をやっていて、昔ながらの日本の伝統文化がすごく好きなので、実は和太鼓なんかも習ってたりして(笑)。

書道って全部墨汁で書くという、モノトーンの世界感も好きだし、カラーコピーがなかった時代の手作りで刷ったパーティーのフライヤーを見ることが、なぜか昔から好きだったんです。小さいながらに日本の文化と、ポップカルチャーは交わりそうで交わらないと感じていて、自分で書道を習いながら、遊びでポップな絵を墨で描いたりもしていたんですね。今、ライブペイントで絵を描いたりするんですけど、それをよく“バランスが良い”と言っていただけなんです。それは多分書道で培われたんだと大人になって思います。

源:他にも何かされていたんですか？

C:中学校のころはバスケやダンスをやっていて、それこそHIP-HOPが好きで、そのころから海外を意識し始めていました(笑)。

もちろんその頃も、書道や和太鼓はやっていたんですけど、今のポップな作品は海外のアーティストさんを見るようになってからMIXされてできていると思います。

源:今後書道での作品を出される可能性は？

C:考えてはいます。それこそ筆を使った作品であったり。

源:日本から世界に発信されているCHOCOMOOさんなので、是非やってください!

何事も「好き」からはいる。

源:ここまで来るまでに、何か挫折などはありましたか？

C:挫折というよりは、もともと絵でやっていこうとは思っていなかったのですが、自分が好きな様に生きていけたらいいなと今まで来た感じなので、大きな挫折はないですね(笑)。

源:順風満帆ですね(笑)!

C:でも、絵ではないんですが、自分が思うように行かなかったりすることはあって、服屋さんをする前は犬のトリマーをしていたんですけど、それも犬が好きだったからなんですけど(笑)。

源:やっぱり何事も好きという気持ち、想いが大事なんですよ。

C:もともと全部『好き』から入るんですけど、自分と向き合ってみると、そのときは犬だったんですね。それでトリマーの学校に行って働き出したんですけど、猫毛のアレルギーだったんです(笑)。で辞めないといけなくなったのが唯一の仕事の挫折です(笑)。

源:スランプはあったりするんですか？

C:やっぱりありますね。描きたいけど、描けないというときがめっちゃあります。

源:そういうときはどんな風に解消しているんですか？

C:そういうときは寝ますね(笑)。



源:寝れないくらい悩むときはありますか？

C:そんなときは、友達と会ったり、旅に出たり、気分転換ですね。

源:締切りに追われるときなんかは、旅に出たりは出来ないと思うんですが、そんなときはどうされているんですか？

C:そんなときは、自分を追い込みます。基本、締切り前は“やらないと”と自分を追い込める方なので、とことん追い込みます。

源:アーティストの方は、全員ではないですが、余裕を持ってつくれる方は少ないですよ。

源:書道って、納得がいかないと、すぐに新しく書き直すと思うんですが、絵の場合はそうはいかないと思うんですが、どうされていますか？

C:絵でもやり直しますね。データで送る場合は取り込んで送るので、一発勝負ではないので、ライブペイント以外がやり直す場合が多いですね。ただ、それも全部一発描きなので、9割完成していてもやり直すので、次はより慎重になりますね。ただ、ライブペイントの場合はやり直しが効かないので、上手いことごまかします(笑)。

Photography: 宗村 和磨 (NEMURA FILMS)

Place: THE CONTEMPORARY FIX KYOTO

Add: 京都府京都市下京区寺町通四条下ル貞安前之町605 藤井大丸7F

Tel: 075-241-3066

Open: 10:30 / Close: 20:00

HP: <http://thecontemporaryfix-kyoto.com>

メンバーさんの性格を知らないと、 良い作品が出てこない。

源: EXILEさんや三代目 J Soul Brothersさんのライブグッズなども手がけられてますが、だいたいどれぐらいの制作期間があるんでしょうか？

C: 最初にNAOTOさんから三代目メンバーの似顔絵を描いて欲しいというお話をいただきましたけど、普通に私も皆さんと同じで、テレビやネットでしか見たことがなく、表面上の顔しかわからないので、とりあえずいろいろ調べて、自分なりに描くんですけど、やっぱりメンバーさんの性格や、雰囲気なども知らないと良い作品が出てこないで、そこは本当に事細かにいろいろ打合せをして、メモをして、つくっていきました。最初はNAOTOさんにチェックしていただいて、その後、各メンバーさんにチェックをいただいて、微調整をして、皆さんに気に入っていただけだったので、大きく書き直すことなどもなく、割とスムーズに完成しました。なので期間でいうと約2週間ぐらいでした。

源: 今回のEXILEさんのブランケットはどうだったんでしょうか？

C: 今回は現在のメンバーさんでの最後のライブツアーとなるので、NAOTOさんの想いが強かったです。皆さんの似顔絵を使ったメンバープロデュースグッズを作るというのは、今回が初めてだったそうで、実は本当に作れるかどうかわからない状況で作り始めたんです。ただ、NAOTOさんの想いが非常に強かったのと、私も是非描かしていただきたいという想いがあったので、三代目さんのときと同じように、念入りに1人ずつの打合せをさせていただいて、完成まで辿り着きました。私も皆さんからのOKをいただけるかもわからないですし、もしOKがでなければなくなってしまうお話しだったので、すごく緊張していたので、本当に良かったです。

源: どのグッズもすごく好評でしたよね！

C: ありがとうございます。それこそNAOTOさんが私の作品を気に入ってくださって、いろいろなお話をいただけるので、本当にうれしいです。

源: それこそNIGO®さんとのコラボもスタートはNAOTOさんだったんですか？

C: これもおもしろい話で、NIGO®さんと私も知り合いで、NIGO®さんが私とNAOTOさんがお仕事をしたことを知って、であれば私に絵を描いてもらおうとなって、描かせてもらったんです。NAOTOさんのキャラクターも作らせてもらったんですけど、それを使いたいということもあって、始まったんです。あのブランドは、日本はもちろんなんですけど、NIGO®さん、NAOTOさん共に、海外での人気もすごいので、海外でもすごく反響がありました。そういう面では新しく私を知っていただける方も多かったんで、すごくうれしかったです。



年初めに必ず目標を立てる。 年の終わりに振り返る。それを続ける。

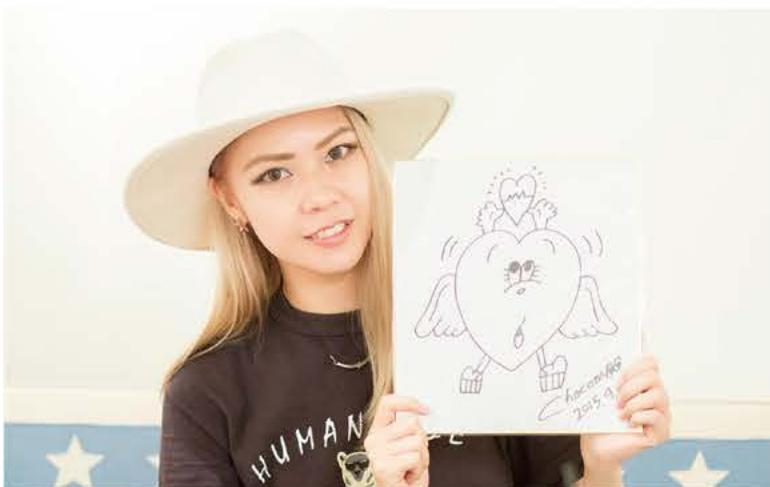
源: そんなすさまじく順風満帆なCHOCOMOOさんなんですが、今後の、未来の展望はありますか？

C: 私は性格的にとても楽天主義で、あまり“これをしてやる”という野望のようなものはないタイプなんですけど、やっぱり絵が好きで、描くことが好きなので、おばあちゃんになってもずっと、何かを書き続けたいという想いがあるので、毎年新しいものをどんどん作っていければと思っています。

毎年年初めに、目標を立てるんですけど、例えば新しいことをするなら立体的なものをつくりたいな、とか漠然としているんですけど、まず自分の中につくって、それをノートに書いて、1年の最後に振りかえって、“できたな！”ということを感じています。今後は今までにつくってこなかった作品作りをしたり、行ったことのない海外の国で展示ができたらと思っています。

源: では生涯CHOCOMOOのままですか？

C: そうですね！自分に飽きなければ(笑)！このまま絵も続けて、新しいこともやり始めているかもしれないですが、スタイルはこのままで。



Present

CHOCOMOOさん直筆イラスト入りサイン色紙

今回、OKAYAMA MOVE UP読者プレゼントに描き下ろしていただいた、世界に1枚だけのCHOCOMOOさん直筆イラスト入りサイン色紙を、抽選で3名様にプレゼント!!
詳しい応募方法は近日HOKAYAMA MOVE UP公式facebookページにて発表させていただきますので、ぜひチェックしてみてください。

OKAYAMA MOVE UP公式facebookページURL
<https://www.facebook.com/JapanMoveUpFromOkayama>



自分が好きなことを、
あまり重荷に感じない。



源：絵のスタイル、テイストもずっとこのままでですか？

C：そうですね。新しいスタイルも生み出したいんですけど、基本は今までもずっとやってきた今のスタイルで新たなものをつくっていければと思っています。あと、自分の中では海外に向けてやりたいという想いがあるので、日本でもお仕事をさせてもらいつつ、海外での展示を増やしていきたいと思っている最中です。

源：イラストレーターやデザイナーに憧れている方は多くいらっしゃると思いますし、自分の好きなことが、自分の仕事になることはみんなが持っている夢だと思うんですが、そんな方々にメッセージをお願いしますか。

C：何かをこうした方がいいよというようなことを言うのは苦手なんですけど、自分が好きなことをあまり自分自信で重荷に感じずに、楽しんでやるが一番続くかな。と思います。私自信も結構打たれ弱くて、結構揺らぐタイプなんですけど、あまりこれを仕事にする！とか頭に思わず本当に自分が楽しんで続けてきたことが繋がってきているので、本当に一番は楽しむことが大切かなと思います。

源：岡山は来られたことがありますか？また印象はありますか？

C：小さいころにあります！それこそ和太鼓をしていたときなんですけど、食べ物がおいしかったです。ただ、何がおいしかったかは覚えていません(笑)。でも素敵な街でした！

源：是非また岡山に来てくださいね！

C：それこそライブペイントをしているのが海外が多いんですが、国内だと、東京や大阪、福岡などなので、機会があればライブペイントのイベントなどで、改めて岡山に是非行きたいです！



CHOCOMOOさんに逢って

実際にお会いして感じたことは、センスの かたまり。
それはイラストレーターとしてのセンスだけでなく人として女性としてのセンス。
SNSや作品から感じるCHOCOMOOさんのイメージは本人にもお話ししたが、
レディーガガみたいなパワフルな女性。
しかし実際はとてもキュートな大和撫子。
正直インタビューをすればする程その魅力が伝わってきた。
「この人は全部わかってる。こうすれば人はどう感じるかを。」と思った。
今回4ページの中で、最初のページと最後のページの写真でその印象の違いを
表現したつもりだ。人生のセンスに溢れたCHOCOMOOさん。
きっとこれからもっともっと世界に羽ばたくんだろうなあ!! 逢えて感謝です!!

OKAYAMA MOVE UP PRESENT'S

MOVE UP BOOKS

powered by



人生が「アがる」一冊を、あなたに。

vol.4 理想のお部屋に模様替えしよう!!

冬は、クリスマスやお正月などゲストをお迎えすることが多いシーズンです。

特別な日に、お迎えするゲストには部屋も気が抜けません!

この本を読んでいっその事、理想のお部屋に模様替えしちゃいましょう!



Category 『片付け』 select.01

片づけ日和 - 快適な暮らしを実現させる仕組みづくり

著者: mk
出版社: ワニブックス

Comment from TSUTAYA
仕組みをつければシンプルで快適な暮らしは誰にでも実現できます。本書を参考に実践して生活がスッキリした事で、微妙な使いにくさが実は大きなストレスになっていたことに気が付けました。あなたにも出来る!

Category 『片付け』 select.02

ダメな自分を認めたら、部屋がキレイになりました

著者: わたなべ ほん 出版社: メディアファクトリー

Comment from TSUTAYA
心身ともに片付け体質になるまでを描いた実録お片付けコミックエッセイ。片付け方よりも部屋を汚す根本原因、ものを溜めてしまう自分のなかの不満を癒して心を浄化し、片付けに取り掛かる一歩になる一冊です。

Category 『片付け』 select.03

片付けたくなる部屋づくり

著者: 本多 さおり
出版社: ワニブックス

Comment from TSUTAYA
片付けに必要なのは本人のやる気20%、残り80%は「片付けたくなる収納法」。本書では本多さんの2Kの自宅を例に「やる気を出さなくても片付けシステム」収納術をオール写真付きで大公開。

Category 『片付け』 select.04

「何もない部屋」で暮らしたい

著者: ミニマルライフ研究会 出版社: 宝島社

Comment from TSUTAYA
モノが溢れる今だからこそ、モノのない部屋に憧れる人が急増中。モノがないことは美しい!ミニマルな暮らしで人生を変えた10人の部屋写真と本人たちのライフスタイル、実際に必要な物の上手な収納の仕方を紹介。

Category 『インテリア』 select.05

カエテミル—インテリアのアイデアBOOK

著者: 川上 ユキ
出版社: 大和書房

Comment from TSUTAYA
本書はモノをちょっと動かすだけで部屋の印象や使い勝手を変えるヒントを色々紹介。「なんだか部屋がバツとしないな」と思ったら見てみて下さい。かわいいイラストと、語り口調の文章で楽しい模様替えが始まります。

Category 『インテリア』 select.06

COLOR WORKS~色の力を伝えたい~

著者: 秋山 千恵美
出版社: LD&K BOOKS

Comment from TSUTAYA
知っているようで、意外と知らないこと。色のプロフェッショナル『インテリアペイント』スタッフがお届けする「色と空間、暮らしのシーン」魅力的な色あわせを暮らしの中から探し、なぜ素敵なのか解き明かす。

Category 『インテリア』 select.07

100%リアルキッチン
ライフオーガナイザーによる心地よい人生を送るための暮らし方

著者: 鈴木 尚子 出版社: メディアファクトリー

Comment from TSUTAYA
キッチンを「私らしく、楽に、心地よく」改善するための実例アイデア集。アイデア134。モテルルームの様に程遠くなく等身大のキッチンがたくさん。アイデアもたくさんあり真似したいときのハードルは低いです。

Category 『インテリア』 select.08

パリの小さなアパートマン

著者: ジュウドゥポウム
出版社: ジュウドゥポウム

Comment from TSUTAYA
小さなアパートマンのインテリア…何ともかわいいです。お金をかけずに工夫して、楽しく暮らしているところがとっても参考になります。読めば部屋を掃除して思いっきり模様替えをしたくなる模様替えの参考書。

Category 『風水』 select.09

自分の家をパワースポットに変える最強のルール46

著者: 江原 啓之 出版社: 小学館

Comment from TSUTAYA
スピリチュアル家づくりの本。運氣を上げる為にパワースポットに行く人はいますが、一番長く過ごす自宅をパワースポットにする事が、幸運を引き寄せる為に最も重要。仕事・結婚・金運…人生を充実させたいあなたへ。

Category 『面白』 select.10

名作マンガの間取り [新版]

著者: 影山 明仁
出版社: SBクリエイティブ

Comment from TSUTAYA
マンガやアニメの主人公が住む家の間取りを図面化し、コメントを添えて掲載。『サザエさん』『ちびまる子ちゃん』『宇宙兄弟』『3月のライオン』『ドラえもん』『ソフバンク モバイル白戸家』など、全71物件!



Title
Holiday

Artists,
Happiness

Comment from TOWER RECORDS.

E-girlsグループの中でもダンスといえばHappiness !1年ぶりにリリースする今作は『UHA味覚糖 e-maのど飴』CMソング。CMで耳にした方も多いはず!「あがってこ!」の掛け声で盛り上がるサビがキャッチーなダンス・チューン!



Title
LOVE ME RIGHT -ROMANTIC UNIVERSE-

Artists,
EXO

Comment from TOWER RECORDS.

韓国で話題のボーイズグループEXOが待望の日本デビュー!!!! いまでは全世界で絶大な人気を誇る彼らの日本デビューシングルは、最新ヒット曲『LOVE ME RIGHT』の日本語バージョン。EXOが今までにないファンキーな曲調に挑戦した1曲です☆



Title
Shake It Off

Artists,
Taylor Swift

Comment from TOWER RECORDS.

世界が恋するシンガー・ソングライター、テイラー・スウィフトのロングヒット・ナンバー! 気にしてなんかいられない!! と何もかもふっとばしちゃうくらい踊りたくなる1曲☆テイラーが可愛く変身するノリノリのMVといっしょにチェックしてください!



Title
One More Time

Artists,
Daft Punk

Comment from TOWER RECORDS.

フレンチエレクトロデュオによる2000年発表のクラシック! フィルター処理のボーカルが印象的で機械的なビートなのになぜか郷愁を感じる不思議な魅力を持ったナンバー。



Title
Born Slippy

Artists,
Underworld

Comment from TOWER RECORDS.

90年代を代表するイギリスの青春映画「トレインスポッティング」の劇中曲となった彼らのブレイク曲。今でもそのクラブアンセムとしての破壊力は絶大で、ビッグパーティで違うDJによって一晩に何回もかかっちゃうなんてこともあります。



Title
It Just Won't Do

Artists,
Tim Deluxe

Comment from TOWER RECORDS.

25万人を集めたブライTONビーチでのファットボーイ・スリムによる伝説のフリーパーティーの一曲目これがこれ。(ちなみに最後の曲もこれです。)ビーチに集まった能天気な25万人の老若男女を一気にアゲちゃいます!

毎回、各テーマに沿った「アガる音」をご紹介します! 是非、チェックしてみてください!!

MOVE UP! SOUND

いい音に出逢えば、毎日がアガる。

powered by **TOWER RECORDS**

vol.5 Recommendation from OKAYAMA MOVE UP

「みんなで踊ろう!!アガるダンスミュージック!!」

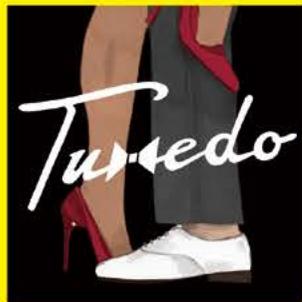


Title
ストレスフリー

Artists,
miwa

Comment from TOWER RECORDS.

本人出演のドラマエンディングテーマでも話題! ライブでは踊ったり、タオルを回したり、投げたりして盛り上がる曲となっています。ダンスも覚えやすいので、ぜひ覚えてレッズストレスフリーダンス!

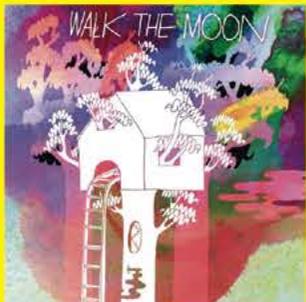


Title
Do It

Artists,
Tuxedo

Comment from TOWER RECORDS.

タワーレコードバイヤー押し【タワレコメン】でも大ブッシュ! 話題沸騰中のディスコ/ファンク・ユニット! 繰り返される「Do It!」というフレーズが頭の中で鳴りやまない! クラブで踊るもよし! 野外で踊るもよし!



Title
Anna Sun

Artists,
Walk The Moon

Comment from TOWER RECORDS.

現在人気急上昇の注目バンド!! この曲のヒットをきっかけに大ブレイク! 彼らの代名詞であるシンセを効果的に取り入れたキャッチーでダンスブルなサウンドが聴きどころの名曲です! メンバーのカラフルなルックスも必見!

TOWER RECORDS shop information

*イオンモール倉敷店

add:岡山県倉敷市水江1番地イオンモール倉敷 2F
tel:TEL:086-434-0811 open:10:00-22:00

*アリオ倉敷店

add:岡山県倉敷市寿町12番2号アリオ倉敷 2F
tel:TEL:086-435-7201 open:9:00-21:00

見島から世界へ

-Represent OKAYAMA-

vol.5 『見島から、世界へ。』

アーティスト活動・アパレル・イベントプロデュース業など、多岐に渡り活動を行うBAZ-KがMCとなり、毎回様々なジャンルの方をお招きし、岡山代表として、あらゆる視野から、“ぶっちゃけ”で対談を行うコーナー。

岡山県から全国、世界に発信する繊維産業の代名詞と言っても過言ではないデニム。

今回は『桃太郎ジーンズ』、『JAPAN BLUE JEANS』などのブランドを展開する、株式会社ジャパンブルーさんより、お2人をお招きし、ぶっちゃけトークを行いました!!

photography: 宗村 和磨 (NEMURA FILMS) / place: ジャパンブルージーンズ見島店



Today's GUEST
岸本 裕樹
株式会社ジャパンブルー
ジャパンブルージーンズ事業部長



Today's GUEST
田淵 達士
株式会社ジャパンブルー
桃太郎ジーンズ事業部岡山本部長



INTERVIEWER
BAZ-K
THE MANSION オーナー

B：岡山県はデニム生産量が日本一と言われていますが、これは歴史などの背景が絡んだ理由があるのでしょうか？

岸本（以下、岸）：もともとこの地区（見島）は塩田だったんですね。塩田の後は農作物が育ちにくいんですけど、綿花は塩に強いことから綿を始めたというのが、見島の繊維産業が始まったきっかけなんです。そのあとに作業着などの縫製産業が盛んになってきて、さらにカバンなどに使う、帆布地という重いものも織れるように育ってきたんです。その重いものを織れる技術と、縫う技術、そして備後地区ではインディゴの植物（藍）も育て始め、それらの技術が合わさってジーンズが作られてきたんです。



B：それから生産量日本一と言われる今に繋がってきたんですね。

岸：生産量もそうなんですけど、技術的な部分でも岡山の見島は評価されてきていますね。

B：そんなデニムが出来るまでの流れを教えてくださいいただけますか？

田淵（以下、田）：弊社はもともと生地屋ということもあるので、何かものを作るときには生地から作っていくパターンが多くて、この生地はどんな色落ちをするのかなどを考え、想像しながら1つのものを企画していきます。なので一番最初は生地からです。次にシルエットやデザインを考え、その後に細かい縫製、という流れになります。基本的にはワンウォッシュ、いわゆる加工をあまり加えない、シンプルなワンウォッシュのものがラインナップとしては多いです。もちろんデニム全体を想像しながら作っ

ていくんですけど、一番に生地を主に置いてデニム作りを行っています。

B：JAPAN BLUE JEANS の一番のこだわりは、やはりその生地なんですか？

田：そうですね。やはりいい生地を作ろうと思えば、どの綿を使うかなんですね。アフリカ産の綿なのか、オーストラリア産、アメリカ産なのか。中でも桃太郎ジーンズは、ジンバブエコットンという海外の高級ドレスシャツに使われるような高級な綿を使っているんですけど、やっぱりいい染色、いい色落ちをするためには、白度がそれなりにあるものではないとキレイに染まってくれないんです。普通はジンバブエコットンはデニムにはあまり使用しないんですけど、やはりいいデニムを作ろうと思ったときに、ジンバブエコットンを取り入れました。

B：その素材はどうやって発見したんですか？

岸：もともとこういったジーンズを作りたいという想いがあるって、それを紡績さんに相談して、いろいろな綿を集めてもらい、検討した中で、一番希望に近かったものがこのジンバブエコットンだったんです。それから実際にデニムを作ってみて、やっぱりジンバブエがいいねとなり、ジンバブエを採用し、今に至っています。

B：なるほど。では生地以外で、お2人が考えるデニムの魅力は何なんですか？

田：僕は、生地にも少しかぶつてしまうんですけど、デニムはやはり色が落ちますよね。普通に考えれば、服や物などはなんでも、劣化するというところはマイナスイメージです。

でもデニムはそのマイナスがプラスになるので、そこが非常に面白いと思います。

岸：洋服って、買った瞬間がわくわくのピークだと思うんですけど、デニムの場合は買ったときよりも時間が経てば経つほど、わくわく

がピークになるので、そういったものはなかなかないので、そういったところですね。

B：ピンテージにしてもそういうところがたまらないところですよね。やはりそういう経年経過や味を楽しめるということが、一番伝えたいデニムの魅力なんですか？

田：そうですね。

B：全く別ものということはわかっているんですけど、やっぱりファストファッションのように、安く手に入るものと、こういったデニムの価値の違いはどうすればよりわかってもらえると思いますか？もちろん金額的な差があることはわかるんですが、その他の決定的な違いはあるのでしょうか？



田：例えば 1000 円未満でデニムを買えたりするなど、あくまで1つの窓口として、ファストファッション自体は全然いいと思うんですけど、今まであまりデニムを履いてなかった方がデニムを履ききっかけになったりもすると思いますし、もちろん中にはいるんですけど、多くの人が最初から高級なデニムを買うのはなかなか手を出しづらい中で、そういうことがきっかけになると思うんですね。そこから大抵の人がもっといいものを履きたいと思うようになると思うんですが、そんなときに如何に自分たちがファストファッションで手に入るデニムよりも魅力的なデニムを作れるかは常に考えています。

B：そういう段階もある程度考えて価格設定などもされているんですね。

田：そうですね。弊社には4つブランドがあるんですけど、その中でも価格設定を分けています。例えば、JAPAN BLUE JEANS であれば、12,000 円から 13,000 円をメインにして、桃太

郎ジーンズであれば 20,000 円からなどにしています。

B：ある程度ターゲットとする年齢層も分けられているんですか？

岸：やはり上代が違うので、若い方は安いほうを選べたりすることは多いですね。でも 12,000 円のものであれば年配の方も買っていかれますし、はっきりとした分かれ方はしていませんが、大雑把には分かれていますね。

B：桃太郎ジーンズと JAPAN BLUE JEANS の違いは価格帯だけなんですか？

田：生地へのこだわりは両ブランド同じなんですけど、桃太郎ジーンズは少しピンテージ寄りのテイストで、ピンテージが好きの方や、マニア層に向けていて、JAPAN BLUE JEANS は、もう少しファッションに寄せていて、例えば、スキニーや、テーパードが少しくつめであったり、加工物があったりなどのデニムですね。そういった部分でマーケットや消費者を分けています。

B：消費者の男女割合はどれぐらいなんですか？

田：桃太郎ジーンズは、9 対 1 でほぼメンズですね。

岸：JAPAN BLUE JEANS でいうと、7 対 3 で 7 割がメンズですね。

B：JAPAN BLUE さんは海外展開もされていると思うんですけど、消費者、生産者の両側面、日本との違いはありますか？

岸：生産者に関して言うと、海外はどれだけ安く、たくさん作るかということしかないですね。

田：合理的な考え方でですね。

岸：どれだけ大きい工場を作って、機械をどれだけ早く動かしてということを求めている工場しかないの、逆に色落ちのいいデニムを作ろうだったり、面白いデニムを作ろうという工場は聞いたことがないですね。





B: 消費者はどうなんですか？

岸: 消費者もそういった方が大半なんですけど、中には色落ちが好きな方もじわじわ増えて来ていますね。

田: 少しずつですけど、そういった人たちが海外でブランドを立ち上げ、自分達でやってたりして、最初は2、3人でやっているんですけど、やっぱりいいものを作りたいって、わざわざ見島まで来たりしています。そこで楽しくて1日中工場を見てたりするんですけど、アテンションが大変です(笑)。なので自分達もいざ、商品を持っていくときには、海外でも少しずついいものを作ろうという考えが生まれてきているので、マーケットとしては今後広がるかなと思っています。

B: ちなみに海外はどこが盛んなんですか？

岸: ドイツ、アメリカ、東南アジアなどですね。

B: その中でもそういった考えを持っている方は全体の何割ぐらいなんですか？

田: 言っても1割未満ぐらいですかね。

B: それは意外ですね！もっとシェアしていると思っていました。

田: 逆を言えば、もっと育てられるマーケットだなと思っていますね。

B: 今後、JAPAN BLUE として新たに組みんでいきたいことはありますか？

田: 今後は、もっと海外でシェアできると思っているので、まずは自分達がやっていることを理解してもらうことですね。つい最近もアメリカを一周してきたんですけど、実際に弊社は展示会にでるだけではなく、1件1件いわゆる業者のようにお店に訪問しているんですね。



岸: やっぱりデニムって、ぱっと見せるだけではなく、いろいろ説明しながら回っていかないとわかってもらえないんです。

B: そうですよね。最初海外の人からすると、なんでこんなに高いの？ってなりますもんね。でも履いて使ってもらうことで、その良さはわかってもらえるものなんですか？

田: 口で説明するよりは早い場合もありますね。まずはオーナーやバイヤーからファンにしているかといけないうんです。

B: ファンにさせる秘訣は何なんですか？

岸: やっぱり作り手の想いですね。それを伝えていながら、理解してもらうことですね。

B: でもそういった試みをしているのは、日本の企業を含め、何社もあるのではないですか？

田: ただ、1件1件歩いて回っているスタイルはおそらく日本だけ見るとうちは誰もしていないですね。例えばニューヨークの展示会のついでにちょっと行く企業の方はいると思うんですけど、このためだけに海外を飛び回る企業はないと思いますね。

B: では今後は海外が主要になってくるんでしょうか？

田: 国内も全然まだまだやっていきます。やっぱり国内でそれなりの知名度がついてきたので、ある程度海外もやりやすかったという部分があったので。というのが日本のマーケットって海外の方からするとすごい難しいらしいですね。何故かという日本自体にオリジナルブランドが無数にあって、かつ海外からもいっぱい入っているし。

B: そういう意味では海外って大手企業は数多くありますけど、それ以外はあまりないですね。

田: 本屋さんに行けば一発でわかりますね。ファッション紙は日本が一番多いんですよ。

B: 確かに！日本のサブカルがオタク気質なところがありますもんね。

B: では国内もターゲットにしつつ、海外も進出して、何か新しくやっていきたいことなどはありますか？

田: ちょうど去年に弊社は、生地屋のコレクトという会社と、製品事業部の藍布屋を合併させて、株式会社ジャパンプルーを設立したんです。見島にはいっぱい同業者があるんですけど、縫製は縫製、加工は加工、仕上げは仕上げだけなど、基本的に分業制なんですね。そんな中で弊社は生地はあるし、工場もあるし、販売も行っているし、例えば1~10まで出来る会社なんです。



なかなか見島でもそういった会社は少なく、そういった意味で、もっと自社をアピールして、どんどん日本に海外の方も来てもらい、

この見島という地域自体を盛り上げていきたい

と思っています。やはり街が盛り上がりれば、この産業ももっと活性化していくと思いますし、逆にこの産業がもっと盛り上がりれば、見島の街ももっと活性化すると思うんです。

B: 実際に最近の見島はどうですか？

田: 最近でいうと、一時に比べればどんどん見島に来る方は増えてきていますね。それこそ海外の方なんかは大阪にホテルを取って、見島まで来られたりしているんです。



B: ではマーケットとしては今後は世界的にやっていくんでしょうか？

田: そうですね。ブランドも会社も大きく売り出していきたいですね。

B: 今後新しく考えるラインはあったりするんですか？

岸: JAPAN BLUE

JEANS としては、今レディースラインをやっている、そのラインをもう少ししっかり確立してやって



いこうと考えています。昔は男性ばかりの職場だったんですけど、今では女性も多く入ってもらって、体制も整ってきているんです。

B: なるほど。ではそれぞれのブランドでも新たなものを作りながら、会社としては世界的に発信しながら、日本の方ももちろん海外の人を見島に受け入れ、見島を盛り上げていこうということなんですかね。

ここには書ききれなかった、ぶっちゃけトークの

全貌はWEBで!!

<https://www.facebook.com/RepresentOKAYAMA>



Special Interview Column

岡山生まれのシンガーソングライター・玉川洋輔が聞く！

インタビューー：玉川洋輔

1st シングル「雨」発売決定！
二度と繋げない君を想い続ける…もう叶わないとわかっていても。
傷切ない極上のバラードソング。玉川洋輔、待望の1st シングル、
ついにリリースが決定!! 【発売日】12月25日【価格】¥1000(税込)
Ameba: <http://ameblo.jp/0912yosuke1225/>
facebook・Twitter: 玉川洋輔で検索



DREAM ARTIST

vol.8 津羽沙「2020年の東京五輪で、みんなと一緒に夢を描きたい」

on Starting Point — 津羽沙のはじまり — 「教員採用試験を目前に、歌を職業にしたいと思った」

玉川：僕らが初めて会ったのは岡山でのライブの時でしたね。今日はこのような形で東京で再会できてうれしいです!!

津羽沙：こちらこそ!!

玉川：早速なんだけど、音楽でやっていこうって思ったのは大学4年の時とか。最近といえば最近…?

津羽沙：自分の中ではもう、結構昔のことですけど(笑)。…小学校の先生の免許は持っていますし、その道に進むつもりでした。ただ、採用試験が近づいてくるなかで思ったんです。私、こ

のまま教師になっていいのかなって。自分が本当にやりたいと思っていた音楽を放り出して置いて、子供たちに夢を与えるとか教えるとか、できるのかなって。そんな私が教師になる意味……ないのかなって。悩みながら、最終的には、本気で歌を職業にしようって決めました。じゃないと一生後悔するって。

玉川：現在は東京ですが、もともと岡山出身だとか。

津羽沙：東京で挑戦してみるタイミングかなって、昨年末に上京しました。

最初はすごい勇気が必要でしたね。

玉川：音楽はもちろんなんだけど、何かに挑戦するために東京へ上京しようと思うと、いろんな不安要素がありますよね。

津羽沙：そうですね。でも、こっちに来て良かったって思うことがたくさんあります。ひとつは、東京に来なければ出会うことができなかった人たちと、たくさんのつながりを持てたことです。人との出会いの一つひとつが重なって、今ここにいる自分が存在している奇跡に驚いています。そこに一番音楽の魅力を感じますね。とにかくいま出会うことができている周りの人たちには感謝でいっぱいです。あとは、身近に感性を磨く場所がたくさんある。どんな

表現の仕方でも、ひとつのステージや作品に一生懸命になれる人の姿にはパワーをもらえています。

玉川：ブログ見てると、ライブにすごい行ってる～! って思う。

津羽沙：ライブハウスなんて行くとレベルが高すぎてワツとなることも多いですけど、プロでもアマチュアでも、音楽ライブでもどんな表現でも、一つの作品やステージに一生懸命になっている人の姿にはパワーをもらえます。自分を振り返るきっかけにもなりますし。

玉川：そういうの大事。自分に足りないものとか、自分が足りないものまみれなこと見えますよね。



on Music — 津羽沙の音楽 —

「昭和歌謡の懐かしい感じを今の時代にミックス」

玉川：東京に来て変わったことはありますか?

津羽沙：夢や目標を持った人たちがたくさん集まる場所なので、エネルギーや勢いの流れがすごいって感じます。

玉川：僕はよく岡山でストリートライブをやったりしてますが、東京って街の空気のスピードが速いうえに、本当

に多くの場所でストリートライブをやっている方がいて、地元岡山とは違った雰囲気ですごく刺激を受けます。

津羽沙：周りの空気やスピードに流されて自分を見失わないよう、自分らしさを大切にしていってということがすごく大事だと思いますね。

玉川：そうだったなかで、今、津羽沙さんはどのようなことに取り組んでい

るんですか?

津羽沙：今は曲を作ることを重視しています。作曲家のヒサシさんと組んで曲を作っているんです。

玉川：どんな曲なんですか?

津羽沙：今作っている曲は、メロディーがはっきりしたような曲、少し懐かしさを感じるような曲になっていますね。今、昭和歌謡を勉強しているんです。この平成の時代に、昭和の雰囲気を持っていきたいというか、ミックスさせたいと思って。今の時代だからこそ新しいものが生まれると思うし、ステキな曲って普遍的なんです。そういうものを生み出していきたいなって。

玉川：これからの夢を教えてください。

津羽沙：2020年のオリンピック・パラ

リンピックで、自分の音楽が何らかのイメージソングになったらなって思っています。たくさんの方が五輪に夢を描いていると思うんですよ。出る人、見る人、いろいろ。そういう人たちを歌を通して応援するとか、一緒に夢を描けるようなことをしたいなって。そのためにも、すごいストレートな目の前の目標を言っちゃうと、CMかドラマのタイアップをとるってことかな。それが一番近いと思います(笑)

玉川：最後に岡山の読者にメッセージを!
津羽沙：とりえず一歩を踏み出してみることが、自分が想像していたよりも大きな未来に通じるってこと。自分も前はこんなふうになると思っていなかったから。



津羽沙 (つばさ)

岡山県岡山市出身。1990年7月7日生まれ。アートチャレンジャー。2014年末に上京し、東京で活動。2016年1月31日に、music&bar BUMPCITY (大久保) にてライブが行われる。【津羽沙のブログ】<http://s.ameblo.jp/tsubasa-tsujii/>

DANCEの道

EXILE TETSUYA “男を上げる” Monthly Column supported by ANGFA

第39回

「DANCE をすると素直に育つ」

これは僕の持論なんですけど、DANCE をする子は素直に育つと思っています。今まで DANCE をやって来て、いろんな人と出会ったり別れたり、今では DANCE を教える番組 (E テレ『E ダンスアカデミー』) や大学で講義をしたり、DANCE を通じてたくさんの人たちと関わってきて思ったことです。まあ一言で言うといい奴が多いと言うか、いい奴ばかりなんです(笑)。自分が DANCE をやっているから僕はいい奴なんです! なんていうつもりもありませんが(笑)、今まで出会った人たちは、性別、年齢、育ち、国が違えど、みんないい奴ばかりなんです。

でも実際のところ、これはなんでなんだろう? と不思議に思った僕は、自分なりに考えてみたんですけど、たぶん言葉を持たない表現方法ということが大きく関わっているのではないかと思います。

言葉って嘘もつけるし、まわりくどくも言えるし、駆け引きもできます。例えば、口喧嘩をしたら、わざと相手を傷つけることも言えますし、黙ったままだと何考えているか分からなくて、さらに怒りを買う場合もあります。でも DANCE の場

合、それが一切ありません。DANCE の喧嘩といえば DANCE バトルですが、まず触れてはいけないルールなので相手を肉体的に傷つけることはないですし、嘘もつけなければまわりくどく伝えることもありません。とにかく自分の持っている伝えたいことを、DANCE で素直に全力で相手にぶつけるバトルは、とにかくお互いが気持ちいいのです。もちろん負けるためちやめちや悔しいという気持ちにはなりますが、そこで勉強することは、とにかく DANCE を好きになって夢中に練習するしかないんだってことなんです。何年か前に僕のダンサーの友達がダンサーの彼女と付き合っていて、些細な事で喧嘩になりその喧嘩が派生して DANCE バトルになったそうです(笑)。こんなことはめったにないですが、もちろん終わった後には仲直りしました! たぶん言いたいことを全部素直に伝えきったんでしょうね(笑)。バトルに限らず、EXILE がやっているようなステージでも、クラブでの SHOW でも同じことがいえると思います。お客様に DANCE で言いたいことを伝えるにはかなりの練習やりハーサルが必要です。伝えたいことをストレートに表現するのが一番伝わりやすいと思います。

HAPPY なら笑顔でとか、怒っているなら何かを破壊するような動きを入れるとか、悲しい時には繊細に、目立ちたかったら思いっきりハチキレて! などなど、とにかく言いたいことをストレートに表現するのが DANCE だと思いますし、見ている方にはそれが一番親切な気がするからです。

一言で DANCE と言っても、この世界には限りなくジャンルが存在するので一概に僕の言っていることが正しいとは言いませんが、身体を動かす表現方法としては間違っているともいえないのではないのでしょうか? 今や日本では義務教育の中に DANCE が入っていたり、本当にたくさんのキッズダンサーがいて、習い事の一つの選択肢に入るくらいになってきました。神経系が成長する小学期や身体系が成長する中学・高校の時期に、DANCE をするのは間違いなくいいことなのは前に研究したことがあります。素直な子に育つという説もこれからさらに研究していきたいと思います。ご興味のある教授さんなどいましたらご連絡お待ちしております(笑)。最後に一言だけ言わせていただきますが、これはあくまで僕の持論です。



神奈川県横須賀市出身。19歳からダンスを始め、横須賀、横浜、東京などのクラブイベントで活動。ダンススクール「EXPG」にてインストラクターをしながら、さまざまなアーティストのバックダンサーとして活動。2007年1月、新生 J Soul Brothers のメンバーに抜擢され、2009年2月にデビュー。同3月1日からは EXILE のパフォーマーとして多方面で活躍。

(TOKYO HEADLINE vol.653 より)

岡山から日本を元気に!!
OKAYAMA

MOVE UP

かけがえのない
未来に夢を。

OKAYAMA MOVE UP とは——

JAPAN MOVE UP 「日本を元気に!」というテーマのもと、「東京から日本を元気に!」と活動を行うTOKYO MOVE UPプロジェクトと連携し、「岡山から日本を元気に!」をスローガンに掲げ、2013年4月から岡山の「人・街・未来」を「社会的活動」と「エンタテインメント」で元気にするべく活動をスタートしました。

会員は地元岡山の企業様をはじめ、個人会員の方まで幅広く同じ志を持つ方々に参加頂いているプロジェクトです。運営は各会員の会費によって行いますが、実行委員会が中軸となって各種団体・企業の皆様に活動をご支援・ご協賛を頂き推進して参ります。

OKAYAMA MOVE UP 実行委員会

PHOTO 夢の課外授業スペシャル (野球指導 工藤公康)



活動事例: 夢の課外授業スペシャル (野球指導 工藤公康 & サッカー指導 水内 猛) JAPAN MOVE UP ラジオ公開収録(松本 利夫・三代目JSB 登坂広臣&ELLY・EXILE TETSUYA) ※写真左から

OKAYAMA MOVE UP実行委員会 加盟企業一覧 (2015年11月11日現在)



総合建設業・一級建築士事務所
河野建設株式会社



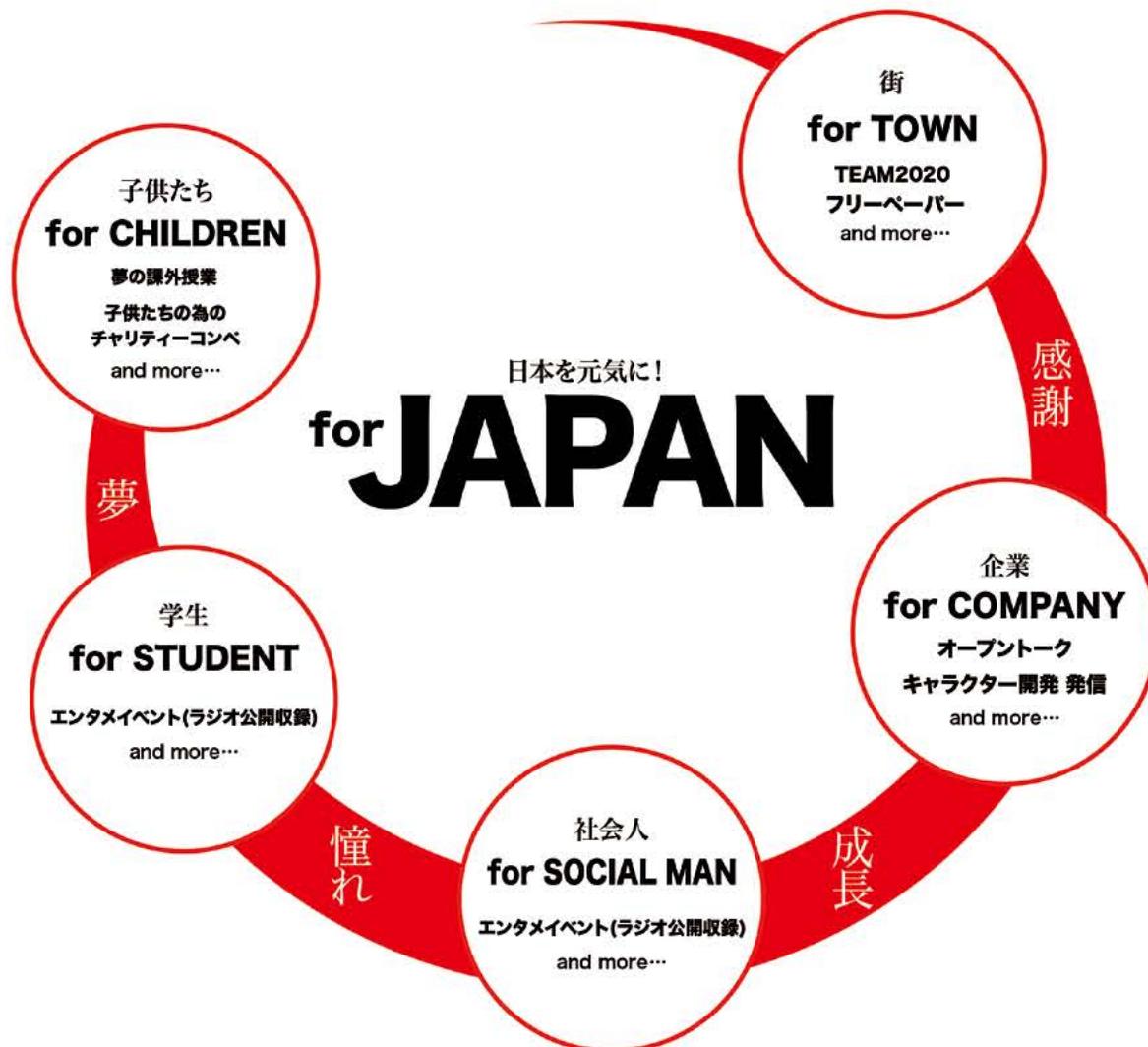
株式会社DMM.com 有限会社ル・クルジャポン

special partner



イオンモール岡山

岡山から日本を元気に!!



『岡山を元気に!』『岡山から日本を元気に!』をコンセプトに、フリーペーパーOKAYAMA MOVE UPの発行をはじめとし、各種イベントを実施するなどエンタテインメントを中心に岡山を盛り上げる活動を行っています。この活動が意義あるものとして皆様方によりご賛同頂けるよう、「岡山県民が元気になる」「岡山県民が岡山を好きになる」「他府県の方々が岡山の良さを知ってもらう」事を目的としています。

「日本を元気にする為に、まずは岡山が元気になろう!」

その為に何が必要か?子供たちに「夢」を、若者に「憧れ」を、社会人に更なる「成長」を与え続ける...それが企業を街を発展させ、岡山を元気にしていく事だと確信します。さらに TOKYO MOVE UP との連携による中央とのネットワークを生かしたコンテンツを創造し、若年層への「認知の拡大と巻き込み」を実現します。また地方創生のモデルのひとつとして「社会的活動」と「エンタテインメント」、「スポーツ」の融合による岡山を元気にするプロジェクト、それが OKAYAMA MOVE UP です。

OKAYAMA MOVE UP 2015

for CHILDREN

夢の課外授業

子ども達に「夢」と「生きる力」を! 未来に向け、子どもに夢をあたえ「生きる力」を考えさせるきっかけや、勇気を持って物事に立ち向かう大切さを知ってもらうため、2000年から各ジャンルの成功者達が、それぞれのスタイルで授業を行います。



実施例)2014.5.31
講師:工藤公康/氷内猛

for CHILDREN

子供達のための チャリティーコンペ

何かがおかしい今の社会、県内外で活動する有志・企業が集まり自分達で出来る社会貢献を。特に未来を担う子供達をサポートしようとこの活動が始まりました。



実施例) 2014.11.11

for STUDENT & SOCIAL MAN

エンタイベント (ラジオ公開収録)

TOKYO FMラジオ番組『JAPAN MOVE UP』の公開収録を岡山県内で実施。各界の著名人をゲストにむかえ、本物のエンタテインメントをライブで体感。



実施例)2015.7.14
ゲスト:DANCE EARTH PARTY (EXILE USA, EXILE TETSUYA, Dream Shizuka)

for COMPANY

MOVE UP オープントーク

岡山から日本を元気にする為に、岡山で活躍する若手経営者などをパネリストにむかえ、どのような街づくりが必要か、何をしていくべきか等を話すシンポジウム。



実施例)2015.5.23
ゲスト:内閣官房副長官 加藤 勝信等

for TOWN

フリーペーパー 『OKAYAMA MOVE UP』

隔月11日 30,000部発行。岡山市、倉敷市 約200カ所に設置。「読んで元気に!」をテーマに、各界で活躍する著名人のインタビュー記事などを中心にしたフリーペーパー。



for TOWN

TEAM2020 ネットワーク展開

東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まった2020年に向け『アクション宣言』をもとに、多くの人びとが参加可能な日本を元気にしていくネットワークを展開。



実施例) 各イベント時、同時に開催

54 JAPAN MOVE UP WEST

OKAYAMA MOVE UP

隔月誌【オカヤマ ムーブアップ】 2015年11月11日発行 vol.17 NOVEMBER

●発行人/ 渡 眞典(株式会社HEADLINE WEST) 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
●発行所/ 株式会社HEADLINE WEST
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089
●編集・製作/ 株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6バルビゾン3 403号

